

塩見記念青少年プラザの前身「塩見文庫」について

○この塩見記念青少年プラザは、土佐市出身の国会議員としてご活躍された故：塩見俊二氏が、高知県の青少年のために開設した、**全国でも稀な幅広い蔵書からなる私設図書館「塩見文庫」**を高知県に寄贈していただき、「青少年の集いの場」としてリニューアルした建物です。

「塩見文庫」は、次のような動機から、塩見ご夫妻が土地・建物など巨額の私財を投じて開設されました。

◆本を読みたくても読めないふるさとの子どもたちのために◆

塩見氏は経済的な余裕がなく、読みたい本を十分に読めなかった学童期や、東京での大学時代に、図書館での時間を多く過ごした経験などから、昭和34年に「私達には子どもがいないので、その代わりに郷里高知の青少年のために図書館を残したい」と決心されました。

◆経済や文化などの地域間格差の解消に向けて◆

塩見氏は、過疎や地域間の格差を我が国の大きな社会問題と捉えており、「人口・産業・教育・文化などが大都市に集中しすぎており、日本全体に調和して再配分されなければならない」というご自身の政治家としての希望を実現するためにも、塩見文庫の建設に尽力されました。



昭和61年4月当時の塩見文庫（小津図書館）

現在の塩見記念青少年プラザは、当時、建築物としてもモダンで注目されていた小津図書館の外観を基本に設計・改築を行っています。

○このように、当時、都会から遠く離れて文化に触れる機会も少なく、また、本を買いたくても買えない高知県の青少年が、高知にいながら本に親しみ、学び、知識を蓄えることができるようにという強い思いから、塩見氏は多忙な国政の合間にコツコツと書籍を購入し続け、昭和41年に、丸ノ内の電気ビル内に「塩見文庫」を開設されました。さらに昭和47年には、現在の場所に鉄筋5階建の「小津図書館」を建設し、塩見文庫を移転して、多くの青少年に学びの場を提供しました。